

1. 調査報告概要表

作成日平成20年 4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 2071000141
法人名	社会福祉法人駒ヶ根市社会福祉協議会
事業所名	グループホーム ほほえみの家
所在地	長野県駒ヶ根市赤穂14番地722 (電 話) 0265-81-7570

評価機関名	NPO法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307番地5
訪問調査日	平成20年3月25日

【情報提供票より】(20年 2月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 10 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤	7 人
非常勤	4 人
常勤換算	8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,100 円	その他の経費(月額)	13,500 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(2 月 28 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	65 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秋城病院、昭和伊南総合病院、県立駒ヶ根病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム「ほほえみの家」は駒ヶ根市の南端に位置し、中央アルプスと南アルプスを望む公園や林に囲まれた静かな環境にある。社会福祉法人の施設として、隣のデイサービス「大原こだま園」やグループホーム「いなほ」との交流はもちろん、多くの地域のボランティアに支えられながら、地域と連携したケアを行っている。
車椅子利用者など足の不自由な利用者が半数を越える中で、利用者一人ひとりに真摯に対応しようとしている職員の姿が印象的であった。「入所の頃笑顔の見られなかった何人かの利用者に笑顔が出てきたことが、とてもうれしい」と語る所長さんの言葉は自信に満ちているように感じた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で課題となっていた「浴室・トイレの安全」について、早速改善されていた。また、「個人ファイルの整理」なども使いやすく改善されていた。そして、「備品の安全管理」についても手に届かない場所に変えたりして、改善されていた。このように、前回評価後、積極的に改善策を講じてきている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に取り組んでいる。そして、細部まで検討し、改善策を立てようとしている姿勢に好感が持てる。今後は、重点的に改善策に取り組み、実現することを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	年3回開催の運営推進会議であるが、連絡や報告ばかりでなく、地域の区長・民生委員・ボランティアの代表の方々の建設的な意見が出され、グループホームの運営に広く活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月家族会を開き、利用者一人ひとりの状況報告など行ったり、家族の意見など気楽に出せるような雰囲気作りをしている。さらに、家族同士で話し合う機会を設け、意見を出そうとできるようにしたいと、積極的に対応していく意向があるので期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域ではグループホーム支援への熱意が大きく強く、いろいろな地域のボランティアの方々の訪問や支援があったり、幼稚園・中学生・短大生・大学生・青年海外協力隊などからも交流を受け入れたりして、地域との連携が十分できている。今後は、このグループホームの特徴を活かした相談活動などを行い、地域に貢献することが望まれる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム開設以来「一人の市民として尊厳ある生活を送り続けられるよう支援し、利用者の方々の人権を守り、身近な相談機能として地域へ広げ、家族、近隣の方々と共に「たすけあい支えあえる地域の文化」を創る」という理念を独自に掲げてきている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア会議などで、理念について話し合い、意思統一を図っているが、理念の共有という点で、まだ十分でないところがある。		スタッフの異動も多いことから、これまでの理念を見直し、職員みんなで共有して実践に取り組みたいと、意欲的に話し合っている。この取り組みが実現することを期待したい。また、理念等は、皆が目止まる場所に掲示することにより、さらに共有できると思われるので改善を望みたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市の社会福祉協議会のバックアップもあり、グループホームとして「めるへん喫茶」に参加したり、利用者は地区の「ふれあいサロン」にも参加したりしている。また、いろいろなボランティアの方々が訪問してくれたり、中学生・短大生・大学生・青年海外協力隊などの研修を受け入れたりしている。そして、ごみゼロ運動や地区の運動会にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、振り返り、見直しを進めている。また、昨年度の外部評価についても、例えば、ファイルの整備などでは、個人ファイルの形式を採用するなど、改善してきている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域住民の代表として、地区のボランティアの方等の参加があり、状況や活動報告だけでなく、いろいろな意見交換がされて、サービス向上に活かしている。		

グループホーム ほほえみの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者や包括支援センターの担当者などと連携を取り、情報提供を受けるばかりでなく、いろいろな相談に乗っていただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月行う家族会では、個別の「近況便り」を渡して生活や健康について報告し、「金銭出納簿」で金銭管理についても報告している。また、「かぼちゃ通信」を発行して、家族や外部の方々にグループホームへの理解を深めていただくよう、努めている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見、不満、苦情等を気楽に出せるような環境作り努力しているが、十分でないと考えている。		毎月行う家族会で、家族同士だけで話し合う機会を設け、その中で出された意見を受け止めていきたいという意向があるので、実現を期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	8年間で9人の異動・離職があった。法人内で新しいグループホームを設立したことなどもあり異動等が多かったが、事前に可能な限り引継ぎ期間を確保し、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や講習、また、職員の経験に応じた研修について積極的に受けるように進め、研修等の結果を報告し合っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上伊那圏域のグループホーム連絡会に参加し、その中のグループホーム相互評価研修会では相互訪問して、取り組み状況や工夫を学び合っている。来年は、職員同士の交流も計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が安心できるように職員の訪問・面談を始め、利用者に入居前1週間ほどの体験実習を通して、徐々にグループホームでの生活や日課に馴染むことができるよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活歴を大切にして、活躍場面では絶えず声掛けして、一緒に生活しているという実感をもつよう努めている。昼食のとき、おかずに出された「なすのおひたし」で、「さんが見つけてくれたなすは春の匂いがする」と言った楽しい会話が弾んだ。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族の話の中から思いや希望を汲み取ったり、センター方式の「私の姿と気持ちシート」などを活用したりして、意向を把握するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の話や家族の意向を十分考慮しながら、課題やケアのあり方について話し合い、3か月に1回、新しく介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月2回のケア会議において、記録等を基に職員全員でケアのあり方を検討したり、課題が発生したその都度、介護計画を見直したりしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や要望に応じ、特別な外出支援をしている。		訪問看護ステーションとの連携により、医療連携体制加算をとって行きたいとの意向があるので、早期実現を期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医の定期的な往診や健康相談を積極的に進めている。また、体調不調時場合には家族と連携し、適切な医療を受けられるよう付き添い・同行を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との話し合いを持って、終末期ケアについての意向や希望を聞き、対応している。		病院との連携をとり、重度化した場合や終末期のあり方についての共通理解の下マニュアル作りをして、家族・職員双方で共有することが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のミーティングを通して、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した対応や言葉かけを行おうとしている。また、記録等の保管に留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたい生活時間の流れを基に、利用者本人のペースも大切にしていこうと支援している。昼食のとき、体調が不調な方には後で食事を摂れるよう、個別に対応していた。		

グループホーム ほほえみの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの状況に応じ、準備したり、後片付けをしたりして、職員と一緒に食事を楽しんでいた。また、テンションが高くなっている方には、とやかに座って言葉かけや本人の状態把握を確認しながら、利用者ペースを保持して食事を摂っていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2日に1回であるが、利用者に合わせて毎日入浴することもできるようにしている。また、車椅子利用で入浴する場合でも十分楽しめるように介助を工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の意向に沿って、田んぼの「なすな採り」等楽しみごとにも季節に応じて日課に取り入れられたり、単調に成やすい日々に変化を持たせている。また、1人の利用者が庭の片隅に残っていた雪を除こうとしていた。このようなときに、利用者の行動や気持ちを理解しながら温かく見守って支援していく姿勢が職員に現われていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日ごろ、職員と一緒に近隣の公園に散歩したり、買い物に出かけたりすることを支援している。しかし、見守りが必要な利用者や車椅子利用者が多いため、外出要望に十分添えないときもある。		普段自由な外出ができるように、さらに地域のボランティアとの連携を図ることが課題になってきているので、今後の尽力を期待したい。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムをつけたり、ドアに鈴をつけたりして、いつでも対応できるようにしている。そして、一人で外出するような場合は、職員がさりげなく付き添ったり、見守ったりしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣と「地域防災協定」を結び、協力者の支援を受けた避難誘導訓練のほかに、ホーム単独の避難訓練、救命講習などを行い、災害時の対応に心がけている。		夜間業務職員も配置しており、「防災マニュアル」の整備については、早急に作成し職員の意識統一をお願いしたい。

グループホーム ほほえみの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの状態を把握し、食事の量や水分の量、摂取方法を考慮して楽しく会食ができるように支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>施設は中庭を真ん中にくると居室が並び、南側に居間・食堂・台所・ベランダが設けられ、明るく、過ごしやすい配置になっている。そして、植物や飾りなどを工夫し、季節感が感じられる雰囲気を作り出している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>畳敷きの和室もあり、利用者の生活習慣を大切にした居室となっている。今まで使用していた家具や備品などを置き、好みに合わせたレイアウトができ、居心地よい空間となっている。</p>		